

お互いさまの こころを運んで

～移動支援サービス車「もろこ号」～



市の南東に位置する南御厨地区^{みなみみくり}。かつて、伊勢神宮の御領地で、穀物を生産して奉納していました。今も、豊かな田園風景が広がっています。

現在、この地域にはおよそ1300世帯3000人の住民が暮らしていますが、令和2年9月末、この地区内を通る路線バスが廃止され、高齢者などの買い物や通院のための移動手段が大きな課題となりました。

そこで、高齢者や交通弱者の生活を助けたいと立ち上がった住民たちが協議を重ね、令和5年9月、地域が自主的に運営する移動支援サービス車「もろこ号」が発売しました。

この「もろこ号」は、南御厨交流センターの東側に流れる古川^{ふるかわ}（旧太田川）に生息しているカワバタモロコという川魚から名付けられました。現在は、絶滅危惧種に指定され、野外で見かけることはほとんどありませんが、自然豊かなこの地域のシンボルとして、古くから親しまれています。

住民の移動手段の危機に瀕^{ひん}しても、地域の努力と思いやりで、今、地域の新たなシンボルとなりつつある「もろこ号」の取り組みを紹介します。



「もろこ号」出発まで

路線バスの廃止

全国的に路線バスが減少するなか、市でも同様にバス路線の減便や廃線が進みました。南御厨地区もバス事業者のドライバー不足や利用者の減少などの理由から、令和2年9月末でJR磐田駅から南御厨地区を結んでいた路線が廃止されました。

バスの利用者

1975年5月に南御厨地区に東新町団地が建設され、高度成長期の働き盛りの世代が多く入居し、通勤などでのバス利用が多かったことで、路線バスの運行が維持されてきました。

しかし、自家用車の普及などが進み、現在は、JR磐田駅からバスを使った移動は減少しています。また、高校生の通学手段についても、市内では自転車通学者の割合が、バスによる通学よりも多く、路線バスの利用率に影響が出ています。

地域をめぐる背景

高齢化と移動手段

高齢化は南御厨地区も例外ではなく、特に東新町団地は市内でも高齢化率が高い状況となっています。

また、高齢者によるブレーキとアクセルの踏み間違いなどの事故多発に伴い、運転に不安を抱え、運転免許証の返納を検討する高齢者も増加傾向にあります。しかし同時に、免許返納後の移動手段に大きな不安を抱える方も少なくはありません。

事業者

少子高齢化に伴い、バス・タクシー事業者は、利用者の確保や人手不足によるドライバーの確保が難しくなっています。

加えて、新型コロナウイルス感染症がもたらした移動需要の変化は、利用者の減少やドライバー不足などの交通事業者の経営に、さらなるダメージを与えました。

「地域の困りごとは何だ。」から始まった活動

公共交通の未来を 考える会

バス廃止については、利用者や住民から今後の移動手段に関する不安と不満の声が聞かれました。南御厨地区にはスーパーがなく、コンビニが1店舗、また病院も2医院のみで、特に、高齢者や運転免許証を持たない交通弱者の不安が大きくなりました。

そこで南御厨地域づくり協議会は、移動手段の問題だけにかかわらず、「地域の困りごとは何だ。」をテーマとして地域の課題を整理し、「交通弱者を近所の人をサポートする仕組みづくり」を優先度の高い取り組みに掲げました。

令和3年12月には「公共交通の未来を考える会」を立ち上げ、行政と連携して、デマンド型乗合タクシーの利用促進とあわせて、地域ボランティアによる移動支援サービスの始動に向けて活動を進めました。

「公共交通の未来を考える会」は、まず市の高齢者の移動手段を確保するサービス「デマンド型乗合タクシー」の説明会を各公会堂で開催しました。そこで新たに約100人が利用者登録をし、利用促進に繋がりました。

次に、全国移動サービスネットワークから講師の派遣を受け、移動支援サービスについての勉強会や他市の移動支援サービス車の視察をしました。

また、住民主体の移動支援サービス車の始動に向け、行政の協力を受け、ボランティアドライバー希望者に、運転の心構えと安全走行のスキルアップを図る安全運転講習会を行いました。

デマンド型乗合タクシーとは

市内を8つの地区に分けて運行している予約型乗合タクシー。自宅と指定施設の間を運行時間を定め、低額で利用できます。



デマンド型乗合タクシー説明会



安全運転講習会



ボランティアドライバーに向けた移動支援サービス勉強会



地域が知恵を出し、汗をかく。

地域の期待をのせて

地域の努力と行政との連携、そして住民の期待を受けながら、令和5年9月29日に、移動支援車サービス「もろこ号」が出発しました。

ボランティアドライバーが、毎週火・水・金曜日に、5人乗り車両の「もろこ号」を運転します。

車両は、リース車両で、リース料、車両燃料費、任意保険などは、市の地域づくり一括交付金を利用し、車両の管理運用を行っています。



出発式

「もろこ号」 運転日誌

ボランティア

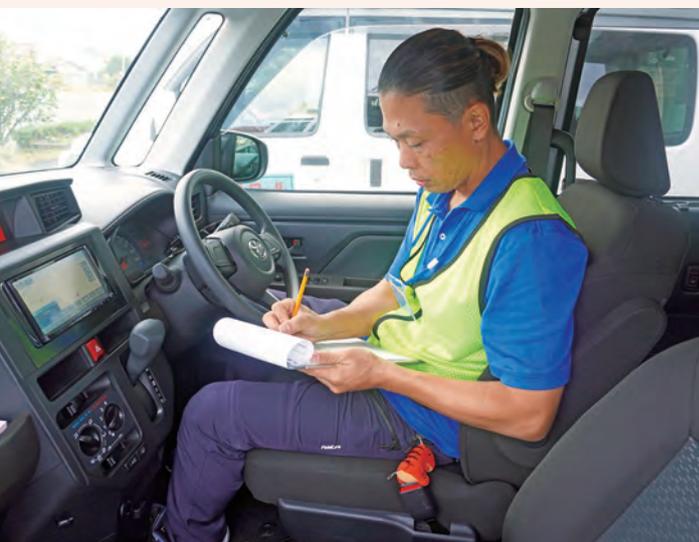
「もろこ号」のボランティアは利用者を送迎するドライバーと、利用者とドライバーのコーディネートがあり、現在23人が登録しています。

ボランティアの多くは65歳以上の方ですが、30代、40代の方も参加しています。活動は、隙間時間や空き時間を利用して、3週間に1回程度と負担の少ない範囲で行なっている方もいます。

利用方法

利用対象は、南御厨地区在住の高齢者や交通手段に不自由な方です。利用者は、会員登録後、南御厨交流センターに行き先と利用時間を事前予約をします。運賃は無料で、自宅と指定した場所までをドアtoドアで移動できます。

利用できる目的地は、市が運営するデマンド型乗合タクシーが行くことのできない、片道15分程度の病院や公共施設、店舗など、できるだけ利用者のニーズに沿った場所となっています。



8:20

交流センターにて、運行スケジュールと利用者の乗車場所を確認し、もろこ号の鍵を受け取ります。運行前に車両点検と運転指示書の記入をします。



9:30

2人目の利用者さんは、市内中心地のショッピングセンターへ。タクシーなどを利用すると、経済的に厳しいので、助かっているとのこと。帰りのお迎えも希望です。

8:30

1人目の利用者さんを自宅近くまで迎えに行きます。この日は、JR 磐田駅近くにある整形外科へ。帰りはデマンド型乗合タクシーを利用するそうです。





11:30

3人目の利用者さんも市内中心地のショッピングセンターへ。普段、自転車で行くこともありますが、体力的に心配な時は、もろこ号を利用しています。帰りはタクシーを利用します。



11:45

2人目の利用者さんをショッピングセンターにお迎え。とても楽しい時間を過ごせたとのことでした。



妻の出身地である磐田市に県外から移住し、最初は地域の人とはあいさつ程度でした。しかし、路線バスの廃止があり、地域の人たちが困っていることを聞き、自分にも何かできることがあればとボランティアに参加しました。

時間が調整できる仕事をしているので、空いた時間で無理なく活動しています。移動支援を行う短い時間の中でも、利用者の方がとても喜んでくれることにやりがいを感じています。また、今まで関われなかった地域の方との繋がりができ、自分も楽しく活動しています。

これからも地域の方の助けになるように、続けていけたらと思っています。



さいだ ゆきはる
齋田 幸立 さん (46歳)

たいらくみこ
平久美子さん（利用者）

毎週、リハビリのため病院へ行きます。距離が遠く、大変なので助かっています。以前、もろこ号の帰りの予約が取れない時があり、ドライバーさんが時間を調整して迎えに来てくれて、親切さに感激しました。ドライバーさんの思いやりに、感謝しています。

「もろこ号」は、生活に欠かせない存在になっています。



お互いさまの

ところを運ぶ

ちょっと困ってる人を、ちょっとお手伝いできる人が、
手助けできるのがいい

むらまつしのぶ
ドライバー 村松 忍 さん（70歳）



同級生に誘われ、ボランティアに参加しました。自治会の活動経験もあり、地域のことがかかるため、負担なく活動ができています。

ボランティアの皆さんは活動を大袈裟おおげさに感じておらず、だからこそ、自然に活動ができています。

自分もいつか、もろこ号を利用する日がくるので、それまでは元気で、地域の手助けをしていきたいです。



父たちの世代も、いずれ利用するから、
自分たちが、引き継いでいきたい

なんりかなこ
ドライバー 南里 哉子 さん（37歳）



市内在住で実家が南御厨地区にあり、父がもろこ号のボランティアに参加すると聞き、生まれ育った地域で何かお手伝いできたらと、父と一緒に参加しました。ドライバーをしている父たちの年齢を考えると、ずっと、お任せしていくのは心配なので、ゆくゆくは、自分たちの世代が引き継いでいけたらと考えています。

自分のような世代の方が、地区に限らず、参加してくれたらと思っています。

地域の力が 試される時代



移動支援サービス車「もろこ号」

運行委員長

やました きよし
山下 記佳 さん (70歳)

南御厨地域づくり協議会

会長

むらまつ なおじ
村松 直司 さん (70歳)

村松さん もろこ号の出発は、地域の方の協力や後押しが、原動力になっていました。地域で困っている人たちを何とかしたいという思いから、みんなで知恵を出し、汗をかいてきました。

今後は「もろこ号」が地域に愛され、地域の誇りになるよう、さらに協力して持続可能な仕組みとして維持していくことを目標としていきたいです。

どの地域でも、高齢者や交通弱者をどう見守り、支援していくかは、大きな問題となっています。人と人とのつながりがあれば、豊かに暮らしていけるのではないのでしょうか。今、地域の力が試される時代になってきていると感じます。

山下さん 南御厨地区は「お互いさまのころが通う南みくり」をスローガンに、さまざま地域活動を進めています。「もろこ号」も利用者の方から「これで生きていける」「移動手段の不安がなくなった」などの声をいただいています。今後もボランティアや利用者の輪が広がるように願っています。

これから市内の他の地域で、移動支援サービスをやってみたいという声が上がってくれば「もろこ号」の活動が、ひとつの指標になっていくと思います。

「ありがとう」と「お互いさま」が地域の助け合いにつながるよう、これからも頑張っていきたいです。

お互いさまのところが **通い**
人と人が、つながっていく

